



—東地中海地域ニュース—

イラン情勢(26)：閣僚名簿提出

研究員 山崎 和美

大統領：閣僚名簿提出

アフマディーネジャード大統領は8月19日、ラーリージャーニー国会議長に閣僚21人の名簿を提出し、承認を求めた。この名簿には、次のように女性3人が含まれている。

教育相：スーサン・ケシャーヴァルズ

保健相：マルズィーイェ・ヴァヒード・ダストジェルディー

福祉相：ファーテメ・アージュルルー

ただし、次の閣僚は留任である。

経済財政相：セイエド・シャムソッディーン・ホセイニー

外相：マヌーチェフル・モッタキー

協同組合相：モハンマド・アッバーシー

道路運輸相：ハミード・ベフバハーニー

鉱工業相：アリー・アクバル・メフラービヤーン

その他の人事も、保守強硬派路線をそのまま踏襲し、経験や専門知識より大統領との近さを優先したもののようだ。22日付ジャーメ・ジャム紙には、大統領に指名された閣僚すべての氏名と顔写真が掲載されている。

イランでは、副大統領を除く大臣の任命には国会の信任投票による承認が必要だが、経験や専門知識よりも大統領との近さを優先する顔ぶれが多く、国会の反発は必至と見られ、既にラーリージャーニー国会議長やバーホナル国会副議長が批判的な発言をしている。

21日付朝日新聞によれば、利権が絡む経済閣僚や、革命体制の維持を担う治安関係には側近を配している。注目は、利権の象徴である石油相へのミールカーゼミー前商業相の指名である。革命防衛隊経済部門出身である同氏の指名には、軍関連企業のエネルギー部門進出を促す狙いがあると見られる。治安関係では、ナッジャール前国防相が内務相に横滑りし、アフマディーネジャード氏が「圧勝」した大統領選で実務を取り仕切った前内務次官2人もそれぞれ科学技術相、住宅相に昇格する。

またイラン内外で、大統領が提出した閣僚名簿に女性3人が含まれていることが注目されている。イランではかつて、ハータミー前大統領時代とアフマディーネジャード大

統領の 1 期目に、国会の信任投票が不要な副大統領職に女性が起用されたことがある。国会の信任投票で承認されれば、1979 年のイスラム革命以降で初の女性閣僚が誕生することになる。大統領に対しては女性問題に消極的との批判があったことから、人気回復を狙った目玉人事だと言えよう。

アルゼンチンとの対立

アフマディーネジャード大統領が提出した閣僚名簿をめぐって、アルゼンチンとの対立が深まっている。21 日、大統領が新国防相に指名したアフマド・ヴァヒーディー氏が、94 年にアルゼンチンで起きたテロ事件の容疑者として国際刑事警察機構 (ICPO) に国際指名手配されていることが判明した。それに対してイラン政府は、駐イラン・アルゼンチン代理大使を外務省に呼び抗議し、「内政干渉」「シオニスト (イスラエル) ロビー団体の圧力や資金提供、プロパガンダの結果」であると主張した。それに対しアルゼンチン政府は、ヴァヒーディー氏の閣僚指名を「司法や遺族への侮辱」と批判し、フェルナンデス首相は「(逮捕は) どの国でも義務だ」として、同氏を拘束するようイラン側に求めている。

改革派裁判継続

8 月 1 日、大統領選挙の不正を訴えた街頭での抗議行動に参加し、逮捕・起訴された約 100 人の被告の公判が革命裁判所で開始した。8 月 8 日、大統領選挙をめぐる抗議デモに関与したとされる被告 100 人の公判がテヘランの革命裁判所で行われ、英仏大使館職員、仏人女性教員などが出廷した。この問題をめぐり、英仏をはじめ EU 諸国との対立が深刻化している。仏人女性教員の拘置所からの釈放には、フランスの要請でシリアの仲介があったようだ。

これ以降も改革派に対する裁判は断続的に実施されてきているが、ペイヴァンド・ニュース (メフル通信) によれば、8 月 25 日にも集団公判が再開され、改革派のサイド・ハッジャーリヤーン (宗教理論家、政治活動家で 2000 年 3 月の暗殺未遂事件の標的になった) も出廷した。さらに検察側は、改革派の 2 政党 IIPP (Islamic Iran Participation Party) と IRMO (Islamic Revolution Mojahedin Organization) の閉鎖を要求している。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799